

日蓮大聖人御書全集

くぼのあまごぜんごへんじ

窪尼御前御返事

こがね

はちす

こと

（金と蓮の事）

新版
1980
〜
1981

くぼのあまごぜんごへんじ　こがね　はちす　こと
窪尼御前御返事（金と蓮の事）

けんじ　こうあんき　くぼのあま
建治・弘安期　窪尼

甘　酒　ひと　桶　山　芋　野　老　少　々　た
あまざけ一おけ、やまのいも・ところししょうしろう、給び

お
了わんぬ。

ぼんもうきよう　もう　きよう　いっし　いっそう　もう　紙　いちまい

梵網経と申す経には、一紙一草と申して、かみ一枚・

草　だいろん　もう　論　土　餅　ほとけ

くさひとつ。大論と申するんには、つちのもちいを仏に

供　養　者　えんぶだい　おう　由　説　書

くようせるもの、閻浮提の王となるよし、とかれかかれて

そろう

候。

似　夫

これは、それにはにるべくもなし。そのうえ、おとこに

過 別

頼 方

尼

駿 河

くににしやま

もすぎわかれ、たのむかたもなきあまの、するがの国西山と

もう

かいのくに波木井

やま なか

送

申すところより、甲斐国はきいの山の中におくられたり。

ひと 捨

聖

かん 責

こころ

人にすてられたるひじりの、寒にせめられて、いかに心

苦

思

遣

たま

送

ぐるしかるらんとおもいやらせ給いておくられたるか。

ふ ぼ

後

懇

遭

父母におくれしよりこのかた、かかるねんごろのことにあ

そうろう

そうら

おんこころ

たも

いて候 ことこそ候わね。せめての御心ざしに給うかと

覚

涙

そうら

おぼえて、なみだもかきあえ候わぬぞ。

にちれん

悪

もの

そうら

ほけきよう

疎

日蓮はわるき者にて候えども、法華経はいかでおろか

袋

臭

包

こがね

におわすべき。ふくろはくさけれども、つつめる金は

清 いけ 汚

きよし。池はきたなけれども、はちすはしようじようなり。

にちれん にほんだいいち 似 非 者 ほけきよう いっさいきよう 勝

日蓮は日本第一のえせものなり。法華経は一切経にすぐれ

たま おんきよう ころろ ひと こがね 取 思

給える御経なり。心あらん人は、金をとらんとおぼさば

袋 捨 ほちす 愛 いけ 憎

ふくろをすつることなかれ、蓮をあいせば池をにくむこと

ほとけ 成 ほけきよう ちから 顯

なかれ。わるくて仏になりたらば、法華経の力あらわる

りんじゆう ほけきよう みな 折

べし。よつて臨終わるくば、法華経の名をおりなん。さる

にちれん

にては、日蓮はわるくても、わるかるべし、わるかるべし。

きようきようきんげん

恐々謹言。

がつ にち

月 日

御返事
ごへんじ